

花が咲いたら

子どもたちは、花を咲かせるためにあさがおを育てているといつても過言ではありません。期待しながらこのときを待っています。それと同時に、開花時期は、気付きの宝庫でもあります。教師としては、このタイミングを逃さず、気付きへつなげたり、気付きを自覚させたりする関わりをしていく必要があります。

ここが
ポイント

クラスで最初に咲いた花をきっかけにする！

クラスで一番最初に咲いた花を見付けたときが、全員で観察するチャンスのときです。他の友達が育てている一輪の花をきっかけに、「自分のあさがおさんも早く咲いてほしい」という思いや願いが一層高まっていきます。「自分のあさがおさんは、いつ咲くかな?」という目で真剣にあさがおを見るようになります。

ここが
ポイント

普段なかなか目を向けることがない部分へ！

花の表側には注目するけれど、花の中や裏側をじっくり見ることはあまりありません。そんなときは、ミクロマンカードを使えば自分が小さいあいさんや蜂さんになったつもりで、「おしべ」や「めしべ」、「がく」などもじっくり観察することができます。



気付き！

花が咲いた時は、自分への気付きを自覚させる絶好のときです。そこで、子どもと次のような会話のやりとりをします。

T 「どうして花が咲いたんだろうね。」
 C 「水をあげたから。」
 T 「じゃあ、○○さんが頑張ってお世話をしたから、きれいなお花が咲いたんだね。すごいね。」

ともすると、あさがおのお世話を熱心に行ってきました子ほど、毎日あさがおの様子を見に行ったり水をあげたりすることを当たり前と考え、自分がすごいとは思っていません。

しかし、それは当たり前ではなく、「続けることができる」というその子の素晴らしいよさです。教師とのやりとりで、子どもの活動を価値付け、自分のよさや成長を自覚させることが大切です。

Active

通常の「観察カード」にしろ、「ミクロマンカード」にしろ、書く際には、自分のあさがおと最初に花が咲いた友達のあさがおの様子を比べる場をつくる必要があります。特に、友達との違いを見付けるのに苦労している子がいれば、最初に咲いた子の鉢と隣り合わせにしてあげると、つぼみやつるの成長・長さ・背の高さという点にも目が向きます。

